

# 事例報告 H29-3

団体名： 森のようちえん ことこと・木こりの会（岡山県）

プログラム名： 津山 森のようちえん ことこと	
(1) プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然に親しむ。</li> <li>・日常的に自然との関わり合いを持たせる。</li> <li>・命の大切さ、つながりを知る。</li> <li>・自然の美しさに感動する豊かな心を持つ。</li> <li>・五感を使って遊び、体験し、学ぶ。</li> <li>・子ども達の生きる力、探求する力を育む。</li> </ul>
(2) プログラムの概要	津山 森のようちえん ことことは、平成29年（2017年）4月に開園した 岡山で最初の常設型森のようちえんです。11月から地元の森林ボランティア団体・木こりの会の活動フィールドを使わせてもらいながら、子どもたちと森の中で週五日活動しています。
(3) プログラムの展開	
時間数	プログラムタイトル
	活動内容
in、about、for の視点で活動内容を区分	
森のようちえん 春（4月、5月、6月）	
里山と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山で自由に過ごしなが、植物・動物・気温・雨・日差し等を五感で感じてもらう。</li> <li>・里山の色々な場所に連れて行き、その場所と親しくなるきっかけを与える。</li> <li>・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先するして、大人は子ども興味関心を観察する。</li> <li>・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。</li> </ul>
in-自然、森林に関する関心・意識を高める。	
森のようちえん 夏（7月、8月）	
川・水と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・川で自由に過ごしなが、植物・動物・太陽の日差し・水の気持ちよさ等を五感で感じてもらう。</li> <li>・川で魚やカニを一緒に探して、川と親しくなるきっかけを与える。</li> <li>・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先するして、大人は子ども興味関心を観察する。</li> <li>・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。</li> </ul>
森のようちえん 秋（9月、10月）	
火と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・焚き火をしたり野外炊飯をして、火と仲良くなる。</li> <li>・焚き火をマッチ一本から自分で作ってみて、上手に燃やすための手順を学ぶ。</li> <li>・火の危険についても、事前に十分に説明する。</li> <li>・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。</li> </ul>
森のようちえん 冬（11月、12月、1月）	
雪と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪の中で自由に過ごしなが、雪の美しさ・冷たさ等を五感で感じてもらう。</li> <li>・雪遊びの中で雪と親しくなるきっかけを与える。</li> <li>・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先するして、大人は子ども興味関心を観察する。</li> <li>・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。</li> </ul>

#### (4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 津山市役所 活動場所(久米山)を提供する。木こりの会の共同事業者として、木こりの会の活動資金を提供する。
2. 木こりの会 久米山の一部の森を森林整備する。
3. 津山 森のようちえん ことごと 森で幼児を預かり週五日活動する。4歳児未満の親子を対象にした森の親子広場を週2回開催する。



#### (5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
感性的経験	里山や川で日常的に過ごすことで、身近な自然環境を知る。自然にどっぷりつかって、春・夏・秋・冬の自然の移りかわりをおして自然を学んでいく。
自然的特性	動物、植物をみたり、鳴き声を聞いたり、触れたり、観察しながら豊かな自然に触れる。
多面的機能	森の木を使って焚き火をしてお昼ご飯をつくる。木をナイフで削ってお箸を創る。森から色々な恩恵を受けることができるということを知る。

#### (6) 活動の分析 (資質・能力の視点)

項目	E S Dの要素(7つの能力・態度)の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	里山で活動することで、動物や植物と仲良くなりそして関心・興味を持って知りたい思う土壌を作る。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	コミュニケーションを行う力 日々の活動の最初と最後に、皆で輪になってみんなの感じている事を聞き合う時間がある。その時間で、他者理解と自分自身の理解を進める、そして表現力を養うことができる。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	人工的に用意された遊び道具が無い里山では お友達と協力して遊びを創っていかないといけない。そのような環境で自分のやりたい遊びを実現する為に、子ども達は協調性や協力して何かを実現する事を身につけていく。

#### (7) 実施後、参加者の変化

<子ども>

自分たちで日々の遊びを考え、その時折にぶつかったり 協力しながら 自分たちの遊びを創り上げていく事により、自分たちで創造していく力、仲間と協力して行動するという協調性が成長した。

<保護者>

自然の中で子どもと関わると、楽しい 安心できる いつもより落ち着いて子どもと接する心の余裕を感じた。その自然の力に驚きを感じた。



# 自然の中で 子育てを

森のようちえん ことことは、岡山県津山市の里山で活動する認可外保育施設です。

子どもたちの生きる力を育むため、一人一人の個性を大切にしながら、自然と共に子どもたちの育ちに寄り添いながら活動しています。

## 私たちが大切にしていること

### 自然は友達



自然は、一人として同じでない子どもたちを受け止めるパートナー。毎日自然の中で活動しています。

### 自分を生きる



やりたい！気持ちを大切に、子どもと共に活動を作っています。

### 子どもと大人共に育つ



地域の全体が学びのフィールド。地域の大人達と共に育てています。



問い合わせ: [kotokotomorimori2017@gmail.com](mailto:kotokotomorimori2017@gmail.com)



わたしたちは、嵐の日も、おだやかな日も、  
夜も昼も冒険にでかけています。  
それは、なにかを教えるためではなく、一緒に楽しむためなのです。

子どもと一緒に自然を探検するということは、  
まわりにあるすべてのものに対するあなた自身の感性に  
磨きをかけるということです。  
それは、しばらくつかっていなかった感覚の回路をひらくこと、  
つまり、  
あなたの目、耳、鼻、指先のつかいかたをもう一度学び直すことなのです。

レイチェル・カーソン

